

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる (2階)		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	令和6年11月28日	評価結果市町村受理日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamapp1/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=2270500248&SVC=0001096&B_JN=00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事は毎月計画を立て定期的に行うようにしています。旬の食材を使用した行事食を提供し、季節を感じていただくよう工夫しています。壁紙も毎月季節に合ったものに飾り替え季節の雰囲気を楽しんでいただいています。その様子も毎月すまいる通信としてご家族にお渡ししています。食形態もその方にあったもの(刻み食、ミキサー食など)を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年3月法人内では新たなグループホームが開所しています。それに伴う新規採用職員は当事業所で3か月程現場研修に入ってから、思いもかけず介護の原点を見つめなおす機会となったことが本年度一番のトピックスです。退所者家族からは定期的に新聞紙が、また民生委員からはタオル等をカットしたウエスが届くとのエピソードからも、初心に立ち返る実直な姿勢が周囲を巻き込んでいることが伝わります。また5類移行を契機に「面会室でおこなう」ことで以前より面会頻度が高まり、一緒に外食へと向かう家族もいて、散歩が定着して歩行状態が向上したことも併せて、利用者の笑顔が増えているのは職員の歓びに結ばれています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒に楽しく笑顔で」と言う理念を各階の共用部や事務所に掲示し、職員が常に目にできるようにし実践できるよう心掛けています。	理念は掲示のうえ、利用者とおこなう朝の体操が終わった後には職員の唱和を励行しています。更に全体会議における確認とともに、本年度は他事業所の研修職員が加わったことで改めて見直す機会を得ています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年も来宮神社の天狗の慰問に来ていただきました。地域の方からも何か行事で参加できるものがあればご連絡くださいと言って頂いています。	花壇の植え替えボランティアのほか理美容慰問は15年程続き、夏祭りでは神輿と山車の来訪もあって、地域とのつながりが深いことが覗えます。また昨年より社会福祉士の実習受入れ先となり、福祉業界への貢献も果たしています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員の方に行事等サービス内容を報告しています。その中で町内活動についてもお話をいただいています が、まだ実践できてはいません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事や事故報告などサービス内容を報告し、ご意見や評価をいただいていますのでサービスの向上に繋げています。	前回の目標に位置付けた計画的な開催は「年6回奇数月の第3木曜日に開催する」と定めて確実な取組と成り、メンバー（市役所介護保険室、地域包括支援センター、民生委員、家族）の参加率が向上しています	民生委員から「地域行事に子どもが減っていて開催できない事もある為、一緒にできないか」と声がかかっていますので、実現に向けた取組が進むことを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員とは入居相談や生活保護の利用者のことなどで電話連絡や行き来するようにしていますので協力関係は出来ていると思います。	市役所からのメールは毎日管理者が確認しています。介護保険に係る質問をはじめ、生活保護者受給者が4名いることもあり、市役所の窓口へは毎月出向いていて、徒歩数分なことから電話よりも早く確実で、立地に助けられてもいます	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関は施錠していますが、各階のドアは施錠していませんので自由に入出入りが出来るようにしています。職員の見守り方法を統一し身体拘束ゼロの意識をもって取り組んでいます。	法令に準じて係る指針を作成し、四半期に1回の「身体拘束廃止委員会」や研修会を開催するとともに、指針は職員が入職すると読んでもらうことにしており、確認の押印も求めるなど意識化に向けた取組があります	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については会社全体での研修会も開催しています。職員一人一人の虐待防止への意識を高めるようにし虐待防止の徹底に努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などは管理者が対応しています。後見制度などについては職員も学ぶ機会を設けていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を設け、ご家族やご本人に同意が得られるようにし、了解を得たうえで同意書などに署名していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者の意見や要望はその都度耳を傾けるようにしてできる限り添えるようにしています。ご家族から頂いた意見や要望も会議などで話し合い改善できるようにしています。	足元がおぼつかずリスクが高いことから家族の要望で離床のセンサーマットを導入した例のほか、「楽に座ってほしい」としてリクライニングの車いすに変更したなど、家族と2人3脚の介護を推進しており、スマイル通信を楽しみにしているとの声も複数入っています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個々に話し合う機会を設け、意見や提案、問題点などはすぐに対応できるよう努めています。	不定期なものの職員の個人面談は履行されています。管理者は取組を共に振り返るとともに、外国人職員も増えたことから丁寧な説明に努めており、また本部役員には職員が体制や購入希望等の具申が叶っています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対しては資格習得支援制度もあり、職場内で活かせるよう環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修などで興味がある研修に参加できるよう情報提供をしています。研修後は他の職員に伝達できるよう会議などで報告するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会や連絡協議会に所属していますので疑問点がある場合は相談しサービスの質の向上に役立てるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるようコミュニケーションを密にして本人の意向に耳を傾け早期に対応できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族の困っている点や要望を聞き取り、不安なく入所できるようにしています。入所後も気軽に相談していただけるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人やご家族に要望や意向を確認し必要なサービスが提供できるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体状況に合わせて出来る事を職員と共に 行っていけるように対応しています。コミュニケーションを大切にし関係性を築くように しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご家族や親族との時間を大切に しています。毎月のすまいる通信で近況の報 告を行い、体調の変化や変わったことがあ った場合は管理者や職員から連絡をするよ うにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症も落ち着いてきましたのでご家族との 外出や外食を楽しまれている方も増えていま す。昔から通っている美容院の方にも定期的 に来ていただき散髪をされる方もいます。	家族との関係に恵まれた利用者が多く、県外の 家族からは定期的に雑誌が届いたり、外食に連 れ出してくださる家族もいて、事業所でも遠方 で偶にしか来れない家族には面会時間の延長の 融通を効かせて協力しています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	入所者同士が良い関係が築けるよう職員が 調整役として対応しています。皆さんで行え るアクティビティや体操も行い、一人が孤立 することのないよう支援に努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても築いてきた関係性を大切にしながら相談などがあれば対応するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションをとり本人の意向や希望を把握できるよう努めています。またできるだけ意向に添えるよう職員間で連携して対応しています。	外出は管理者が聞き取って企画につなげ、食事は行事担当が好みに副よう工夫に取組、全体会議を通じて職員に説明しています。お風呂好きな利用者には入浴剤を毎月日程を決めて提供したり、音楽好きな人は家族が持ち込んだCDで楽しんでいます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当者からその方の生活歴や暮らし方、生活環境など入所前に把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化については記録に残し、申し送り時や会議で話し合い職員間での情報を共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者がより良い生活が送れるよう本人やご家族の要望や意向を聞き調整できるようにしています。また調整した結果を介護計画に反映するようにしています。	介護支援専門員が中心となり、家族からは電話で、職員からは全体会議において意見を聞き、介護支援計画(仮)を作成しています。それを元に更にもう一度話し合いの場を持ち、綿密な推進としています	作成後は個別ファイルに閉じる前に日報の個別ファイルで回覧していますが、こちらを視認したかは不明瞭とのことです。で、確認印などの仕組みをつくることを期待します
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やサービスの実践、結果については日報や個別記録に記載し職員がいつでも確認できるようにして情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者やご家族の状況を把握してニーズに合ったサービスが提供できるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所・消防・高齢者相談センターなど必要最低限の協力をいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、入所前からのかかりつけ医や専門医はご家族、入所者の希望に沿った医療を受けられるよう支援しています。	1名が在宅の頃からの医師を継続していますが、他17名は事業所の協力医の訪問診療を受けています。当日は管理者と日勤の職員2人で対応し「往診結果」に記録を残し、ファイルしています。また訪問歯科の来所が毎週あり、口腔ケアにも余念がありません	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護とは24時間連絡が取れる体制があり週1回の訪問を実施しています。その際は健康状態の報告をし適切な看護が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族と共に医療機関の相談員と連絡を取り合い、情報交換をしています。面会時には同席して看護師や相談員から話を伺い、早期に退院が出来るよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際にご家族とご本人に重度化した場合や終末期についての方針を説明確認を行い、同意書を交わしています。必要時には再度ご家族と医師と話し合い方針の確認をするようにしています。	「ご利用者様が重度化した場合看取り期における対応に関する指針」を備えるとともに協力医は24時間オンコール体制にあり、訪問看護事業所にも依頼可能としています。一方、大抵は重度化で入院となると当事業所には戻ってはこず、実績は此処5年程ありません	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にAEDを設置し緊急時に対応できるようにしています。また緊急時の初期対応についてはマニュアルがあり全職員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら6月と11月の年2回の総合防災避難訓練を実施しています。	年2回の法定訓練は「総合訓練」と銘打ち、運営推進会議も合同でおこなう併設のデイサービスと協力し合って避難訓練と通報訓練にあたっています。全職員が体験する為にもシフトを調整し、特に外国人職員には必ず参加してもらっています	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては接遇委員会が中心となり、接遇五原則を基本に職員間で注意しながら対応しています。	契約時には利用者家族へ個人情報の保護に関する説明をおこなうほか、接遇委員会の設置とともに、プライバシー保護について気になることがあれば職員間でのやり取り後管理者へ報告が挙げられ、翌朝礼で全体共有が図られています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを密にして普段から話しやすい関係性を築くよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活のペースはありますが、出来る限りその方にあったペースで過ごせるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回定期的に訪問理美容を行っています。ご本人のご希望で馴染の美容師の方に来ていただく入所者もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は行事食として季節の食材を使用した食事の提供をしています。内容については毎月のすまいる通信でご家族に見ていただくようにしています。ご家族と外食される方も増え喜ばれています。	食事は日勤者が献立を考え調理しており、肉と魚が被らないようにといった大まかな目安が設けられています。ミキサー食が6名、きざみ食2名、食事介助者5名という状況でも、節分の恵方巻は海苔ではなく卵とするなど工夫して、季節の行事食は欠かしていません	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量は毎食記録に残し職員が把握できるようにしています。食形態もその日の体調に合わせた食形態が提供できるように対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っています。週1回の歯科医師と口腔衛生士の訪問で口腔内のチェックをしていただき口腔衛生に気を付けています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表に記載して一人一人の排泄パターンが把握できるようにしています。出来る限りトイレでの排泄が出来るようチェック表を確認しながらトイレ誘導を行っています。	寝たきりの3名以外は、日中リハビリパンツで過ごすように取組んでいます。「水分を1500cc摂取しよう」が功奏してトイレでの排泄が増えており、また排泄チェック表を通じて利用者の状況を頭の中に入れていることからタイミングを掴んだ支援が実現しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物については朝食時に毎食果物を提供するようにしています。水分摂取量も表を確認しながら声掛けをして水分不足にならないよう気を付けています。毎日青汁を飲まれる方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回定期的に行い、その時に入れない場合は日にちを変更して入れるようにしています。毎月26日は風呂の日として入浴剤を入れ雰囲気を楽しんでいただいています。シャワー浴の方が増えているため浴室の温度設定には十分注意して対応しています。	リスクを鑑みシャワー浴が6名と増えています。毎月26日を「風呂の日」位置づけて温泉入浴剤で楽しむ日もあり、週2回を目安としています。好みのシャンプー、リンス、ボディシャンプーを愛用する利用者もあり、紫陽花や柚子の変わり湯にもチャレンジしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ離床時間をとり夜間安眠できるようにしています。部屋の温度設定もこまめに変更し良眠出来るよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬局にカレンダー管理を依頼しているため、全職員がすぐに確認できるようにしています。不明な場合は薬剤師に連絡し確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者とコミュニケーションをとり興味のあることや希望を聞き取り、個々に合った支援を提供できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もドライブレクの計画をしていましたが、様々な理由で出かけることが出来ませんでした。その反面ご家族と外出される方が増えています。	年間計画は作成したものの、外国人職員が増えた現在の職員体制から実施が難しく、おこなえていません。歩行可能な利用者は3名となっていますが、屋上の散歩や日光浴はベッド上の生活となつた人以外は取り組んでいます	今年もアクティビティ委員会ではドライブ外出などが協議されているとのことですが、確かな実現に向けて法人内の他事業所に呼びかけ、合同で取組むことも検討ください

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については基本的に事務所でお預かりしています。希望時や必要な場合はすぐに使えるようにしています。お財布がないと不安になられる方には少額の現金を入れ持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的に手紙が送られてくる方はいますがやり取りは行っていません。携帯をお持ちの方も数名いますが操作などわからなくなることがありますので職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下など共用スペースは季節を感じていただくよう毎月装飾を変えるようにしています。また日に2回の清掃で不快な思いをさせないよう清潔保持に努めています。	コロナ禍同様に現在も徹底して衛生管理に取組むほか、感染委員会があり法人グループ全体の感染研修もおこなっています。またドライブ外出が減ったこともあって、共用スペースは季節感のある装飾が鮮やかで、力を入れていることが伝わります	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者同士の相性や身体状況により一応決まった席を確保しています。必要に応じて席替えも臨機応変に行えるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族やご本人と一緒にベッドやタンスの配置を行っています。ご自宅で使い慣れたものや写真などはご持参していただき居心地よく過ごせるよう工夫しています。	ぬいぐるみ、テレビ、写真、ラジオカセット、クッションなど、どの居室にも何かしらの馴染みのものが置かれていて、その人らしさが感じられます。また誕生日や敬老の日には家族から花が届く利用者の部屋は、その日は花の香りでいっぱいになるとのことです	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立した生活が送れるよう入所者の要望にはしっかり対応できるよう環境整備に取り組んでいます。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270500248		
法人名	有限会社 中島介護サービスセンター		
事業所名	グループホーム すまいる（3階）		
所在地	静岡県熱海市福道町3番3号		
自己評価作成日	令和6年11月28日	評価結果市町村受理日	令和7年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamapp1/hvoka/003hvoka/hvokekka_nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=2270500248&SVC=0001096&B_JN=00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事は毎月計画を立て定期的に行うようにしています。旬の食材を使用した行事食を提供し、季節を感じていただくよう工夫しています。壁紙も毎月季節に合ったものに飾り替え季節の雰囲気を楽しんでいただいています。その様子も毎月すまいる通信としてご家族にお渡ししています。食形態もその方にあったもの(刻み食、ミキサー食など)を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年3月法人内では新たなグループホームが開所しています。それに伴う新規採用職員は当事業所で3か月程現場研修に入ってから、思いもかけず介護の原点を見つめなおす機会となったことが本年度一番のトピックスです。退所者家族からは定期的に新聞紙が、また民生委員からはタオル等をカットしたウエスが届くとのエピソードからも、初心に立ち返る実直な姿勢が周囲を巻き込んでいることが伝わります。また5類移行を契機に「面会室でおこなう」ことで以前より面会頻度が高まり、一緒に外食へと向かう家族もいて、散歩が定着して歩行状態が向上したことも併せて、利用者の笑顔が増えているのは職員の歓びに結ばれています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒に楽しく笑顔で」という理念を各階の共用部や事務所に掲示し、職員が常に目にできるようにし実践できるよう心掛けています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年も来宮神社の天狗の慰問に来ていただきました。地域の方からも何か行事で参加できるものがあればご連絡くださいと言って頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で民生委員の方に行事等サービス内容を報告しています。その中で町内活動についてもお話をいただいておりますが、まだ実践できてはいません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事や事故報告などサービス内容を報告し、ご意見や評価をいただいておりますのでサービスの向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員とは入居相談や生活保護の利用者のことなどで電話連絡や行き来するようにしていますので協力関係は出来ていると思います。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上玄関は施錠していますが、各階のドアは施錠していませんので自由に入出入りが出来るようにしています。職員の見守り方法を統一し身体拘束ゼロの意識をもって取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については会社全体での研修会も開催しています。職員一人一人の虐待防止への意識を高めるようにし虐待防止の徹底に努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などは管理者が対応しています。後見制度などについては職員も学ぶ機会を設けていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間を設け、ご家族やご本人に同意が得られるようにし、了解を得たうえで同意書などに署名していただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者の意見や要望はその都度耳を傾けるようにしてできる限り添えるようにしています。ご家族から頂いた意見や要望も会議などで話し合い改善できるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は個々に話し合う機会を設け、意見や提案、問題点などはすぐに対応できるよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対しては資格習得支援制度もあり、職場内で活かせるよう環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には外部研修などで興味がある研修に参加できるよう情報提供をしています。研修後は他の職員に伝達できるよう会議などで報告するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設部会や連絡協議会に所属していますので疑問点がある場合は相談しサービスの質の向上に役立てるように取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心した生活が送れるようコミュニケーションを密にして本人の意向に耳を傾け早期に対応できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の段階でご家族の困っている点や要望を聞き取り、不安なく入所できるようにしています。入所後も気軽に相談していただけるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時にご本人やご家族に要望や意向を確認し必要なサービスが提供できるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体状況に合わせて出来る事を職員と共に 行っていけるように対応しています。コミュニケーションを大切にし関係性を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などご家族や親族との時間を大切にしています。毎月のすまいる通信で近況の報告を行い、体調の変化や変わったことがあった場合は管理者や職員から連絡をするようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症も落ち着いてきましたのでご家族との外出や外食を楽しまれている方も増えています。昔から通っている美容院の方にも定期的に来ていただき散髪をされる方もいます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士が良い関係が築けるよう職員が調整役として対応しています。皆さんで行えるアクティビティや体操も行い、一人が孤立することのないよう支援に努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても築いてきた関係性を大切にしながら相談などがあれば対応するようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションをとり本人の意向や希望を把握できるよう努めています。またできるだけ意向に添えるよう職員間で連携して対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や担当者からその方の生活歴や暮らし方、生活環境など入所前に把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化については記録に残し、申し送り時や会議で話し合い職員間での情報を共有するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者がより良い生活が送れるよう本人やご家族の要望や意向を聞き調整できるようにしています。また調整した結果を介護計画に反映するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やサービスの実践、結果については日報や個別記録に記載し職員がいつでも確認できるようにして情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者やご家族の状況を把握してニーズに合ったサービスが提供できるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所・消防・高齢者相談センターなど必要最低限の協力をいただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、入所前からのかかりつけ医や専門医はご家族、入所者の希望に沿った医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護とは24時間連絡が取れる体制があり週1回の訪問を実施しています。その際は健康状態の報告をし適切な看護が受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合はご家族と共に医療機関の相談員と連絡を取り合い、情報交換をしています。面会時には同席して看護師や相談員から話を伺い、早期に退院が出来るよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約の際にご家族とご本人に重度化した場合や終末期についての方針を説明確認を行い、同意書を交わしています。必要時には再度ご家族と医師と話し合い方針の確認をするようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にAEDを設置し緊急時に対応できるようにしています。また緊急時の初期対応についてはマニュアルがあり全職員が対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら6月と11月の年2回の総合防災避難訓練を実施しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては接遇委員会が中心となり、接遇五原則を基本に職員間で注意しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションを密にして普段から話しやすい関係性を築くよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活のペースはありますが、出来る限りその方にあったペースで過ごせるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回定期的に訪問理美容を行っています。ご本人のご希望で馴染の美容師の方に来ていただく入所者もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回は行事食として季節の食材を使用した食事の提供をしています。内容については毎月のすまいる通信でご家族に見ていただくようにしています。ご家族と外食される方も増え喜ばれています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量は毎食記録に残し職員が把握できるようにしています。食形態もその日の体調に合わせた食形態が提供できるように対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っています。週1回の歯科医師と口腔衛生士の訪問で口腔内のチェックをしていただき口腔衛生に気を付けています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄チェック表に記載して一人一人の排泄パターンが把握できるようにしています。出来る限りトイレでの排泄が出来るようチェック表を確認しながらトイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物については朝食時に毎食果物を提供するようにしています。水分摂取量も表を確認しながら声掛けをして水分不足にならないよう気を付けています。毎日青汁を飲まれる方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回定期的に行い、その時に入れない場合は日にちを変更して入れるようにしています。毎月26日は風呂の日として入浴剤を入れ雰囲気を楽しんでいただいています。シャワー浴の方が増えているため浴室の温度設定には十分注意して対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ離床時間をとり夜間安眠できるようにしています。部屋の温度設定もこまめに変更し良眠出来るよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬局にカレンダー管理を依頼しているため、全職員がすぐに確認できるようにしています。不明な場合は薬剤師に連絡し確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所者とコミュニケーションをとり興味のあることや希望を聞き取り、個々に合った支援を提供できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度もドライブレクの計画をしていましたが、様々な理由で出かけることが出来ませんでした。その反面ご家族と外出される方が増えています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金については基本的に事務所でお預かりしています。希望時や必要な場合はすぐに使えるようにしています。お財布がないと不安になられる方には少額の現金を入れ持っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から定期的に手紙が送られてくる方はいますがやり取りは行っていません。携帯をお持ちの方も数名いますが操作などわからなくなることがありますので職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下など共用スペースは季節を感じていただくよう毎月装飾を変えるようにしています。また日に2回の清掃で不快な思いをさせないよう清潔保持に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者同士の相性や身体状況により一応決まった席を確保しています。必要に応じて席替えも臨機応変に行えるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族やご本人と一緒にベッドやタンスの配置を行っています。ご自宅で使い慣れたものや写真などはご持参いただき居心地よく過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立した生活が送れるよう入所者の要望にはしっかり対応できるよう環境整備に取り組んでいます。		